

指を組み、ぐうーっと両手を上げて背を伸ばす。

深夜1時。また中途半端な時間だ。

別に夜勤とかそういうのでなく。

見渡すと、同じように夜を持て余したか、昼夜逆転。仮眠室にもちらほらいるだろう。

つまり単にこの職場がそういうトコロというだけで。

充実した福利厚生と、ズボラな勤怠管理が売りの超絶ホワイトすぎて。もう、ココなくなったら生きてけないけど、うちのボスならそっから生きてけるだけの退職金くらいくれそう気がする。

まあ、それにあぐらかかずにバカみたいに仕事してるメンツばっか集まってるのだけど。

冷めて泥みたいになったコーヒー飲み干し、失敗したなと気づく。

これじゃあ、また朝までコースじゃない。

思いつつ、

～～♪

それまでタイプ音しかしてなかった室内に鳴り出したのは、唐突にも軽快なメロディ。

世界的に有名なテーマパークのパレード曲のオマージュとか言ってたけれど。

まあ、なんだ。コーヒー飲んで、正解でした？

もう一度見渡す。

このメンツなら、やっぱ私か。

ボスも棗さんも最近ご無沙汰だし。

年功序列ではないけれど。亀の甲より年の功ってね。

言ってる自体、古臭い。

手を叩いて皆の視線を集める。

はい。皆さん。注目です。こんな時間ですけど、またまた、またまた、

「うちのお姫様が他のシマにカチコミかけに脱走したので、我々はこれから全力でバックアップします」

タイムリミットと目標は、どこぞの特務隊が到着するまでに、拾えるものを全部回収。

仮眠室で寝てる連中も起こしてきて。

言いつつ、発信機から目的地を割り出す。

割と近め。

ただ、ちょっと鎌倉府入ってるのがコワイかなー？

「指揮車、準備できました」

はいよ。指折り数えると、今月3回目だったので、いいかげん自分も昼勤になりたいとこだけど。

「バイオリズムってコワイわー」

あくびひとつしながら、外へ向かった。